

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月21日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4677500094号		
法人名	医療法人 おさしお会		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 吾平町 麓 3677番地 1 (電話) 0994-58-5858		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市 星ヶ峯 4-2-6		
訪問調査日	平成21年9月18日	評価確定日	平成21年10月3日

【情報提供票より】(平成21年 8月20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人 非常勤 0人 常勤換算 15人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階 建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000~24,000	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要 (8 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 89.2 歳	最低 75 歳	最高 103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平瀬病院 井上病院 長崎内科 小浜歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは母体医療機関に隣接して設置されており、地域医療福祉の拠点として特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・デイサービスなどがある。職員も全員常勤採用で、研修も充実し、理念に沿って、毎日のケアに取り組んでいる。リビングや廊下・台所も広く、居室にはそれぞれ入居者が使い慣れたものや写真などを飾り、自宅にいるような雰囲気がある。居室入り口の表札も、職員の手作りで、暖かい感じを受ける。音楽療法やレクリエーションなどを取り入れ、入居者と職員が明るく過ごしており、野菜作りや調理などを一緒にいき、支えあう関係が築かれたホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の記録については、話し合い、改善に取り組んでいる。今後は会議録を欠席者や不参加の家族にも配布する事を検討している。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、自己評価や外部評価の意義や目的を職員に研修し、それぞれに調査票を渡し、各ユニットで話し合い、その結果をまとめた。評価を通してサービスの質向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族からのアンケート結果についての意見が出され、会議で話し合いサービス向上に反映されている。家族会の運営では、家族だけの話し合いの時間を設けるなど、運営推進会議での意見が、運営に反映されている。
重点項目	②
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目	③
	面会時にはお茶の接待をするなど、家族とのコミュニケーションを図り、意見や苦情を聞くよう努めている。年2回家族会を開催し、意見や要望を表す機会を設けている。運営推進会議には家族代表にも参加を呼びかけ、多くの意見を引き出すよう工夫している。
重点項目	④
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭や夏祭りに参加したり、保育園児や小学生・地域の高齢者の訪問などがあり、地域の人々と交流に努めている。短大生の研修受け入れもあり、利用者が楽しみにしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を考慮し、地域の中でその人らしく、安らぎのある生活を支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングの見やすいところに職員手書きの理念を掲示し、採用時や毎日のミーティングなどで理念について話し、理念を共有し、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や夏祭りに参加したり、保育園児や小学生・地域の高齢者の訪問などがあり、地域の人々と交流に努めている。短大生の研修受け入れもあり、利用者が楽しみにしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価や外部評価の意義や目的を職員に研修し、職員全員で取り組み、改善点については会議等で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催し、ホームの活動報告や行事予定など報告している。多くの委員から意見や質問など受け、話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から相談などを積極的に行い、アドバイスなどもらい、連携してサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居者の写真を掲載したホーム便りを発行し、個別に入居者の様子を書き添えて送付している。健康状態については、その都度電話で報告している。職員の異動は家族会で報告し理解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、家族だけで話し合う時間を設け、不満や苦情を表す機会としている。運営推進会議に家族代表に参加してもらい、多くの意見を引き出し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動は最小限におえるよう努めている。法人内やユニット間の異動はあるが、入居者へのダメージを防止する配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交替で研修に参加し、研修報告を行い、研修内容や情報など共有している。ホーム内の研修も毎月実施し、サービスの質向上に取り組んでいる。資格取得希望者への取り組みは積極的に進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に加入し、情報交換や研修などに参加している。グループ内の他のホームとも、電話での相談など協力関係を築き、交流を通してサービス向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、自宅や医療機関等に訪問してゆっくり懇談を行なっている。またホームの見学を勧めたり体験滞在を提供して、徐々に馴染めるよう工夫して、安心して入居できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に「学ばせていただくことや教えていただくことを大切に受け止めながら共に過ごさせてください」と掲げて、料理や野菜作りなど、一緒に行いながら、学んだり支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の担当者を決め、日々のかかわりの中で、言葉や表情・行動などから、思いや意向を汲み取るよう工夫している。利用者本位を尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、本人や家族の思いや希望を把握し、職員間で話し合い、必要な関係者の意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に期間に応じて見直し、本人や家族の思いや要望を確認し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談して、受診介助や買い物・墓参り・理美容院・ふるさと訪問など、希望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族会で話し合い、4月より、協力病院の訪問診療も実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、入所時に説明している。また、体調に変化があった時には、すぐ対応するためのマニュアルも整えチームケアに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時にプライバシー保護について説明を行い、契約書を取り交わしている。年1回はプライバシー保護について、勉強会を行い、言葉かけや対応の仕方・書類の管理などを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決めているが、入居者のペースを大切に支援している。起床や食事時間・散歩等、希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きなメニューを聞いて献立を作っている。利用者は調理・盛り付け・配膳・片付けなど、できる事を職員と一緒にしながら、楽しい食卓づくりに参加している。パイキングなど食事を楽しむことができるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日はユニットで交互に奇数日と偶数日に実施している。その日に入浴できなくても、柔軟に支援している。温泉に出かけて楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の力を活かし、来訪者へのお茶の接待や洗濯物干し・調理などの役割、音楽療法・歌・体操・塗り絵・ビーズ細工などの楽しみごとや、ドライブ等の気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調を見ながら、散歩や買い物・ドライブなどに出かけたり、屋外のベンチで外気浴等実施し、ホームに閉じこもらない支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は勉強会を行い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員間で連携を取り、見守りや所在確認を徹底し、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し、毎月ホームで職員と入居者で自主的に避難訓練を行っている。母体医療機関との合同の訓練も実施しており、協力関係ができています。備蓄は母体医療機関で準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の確保についてはチェックし記録している。一口大に調理するなどの工夫や、献立については、母体医療機関の栄養士にアドバイスをもらい、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビングや廊下などが広く、明かり窓があり、日差しはブラインドで調節している。テレビやソファなどを設置し、職員手作りの額や季節の花を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、タタミとフローリングの部屋がある。使い慣れたテーブルや椅子・テレビなどを持ち込み、写真や人形などを飾り、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。